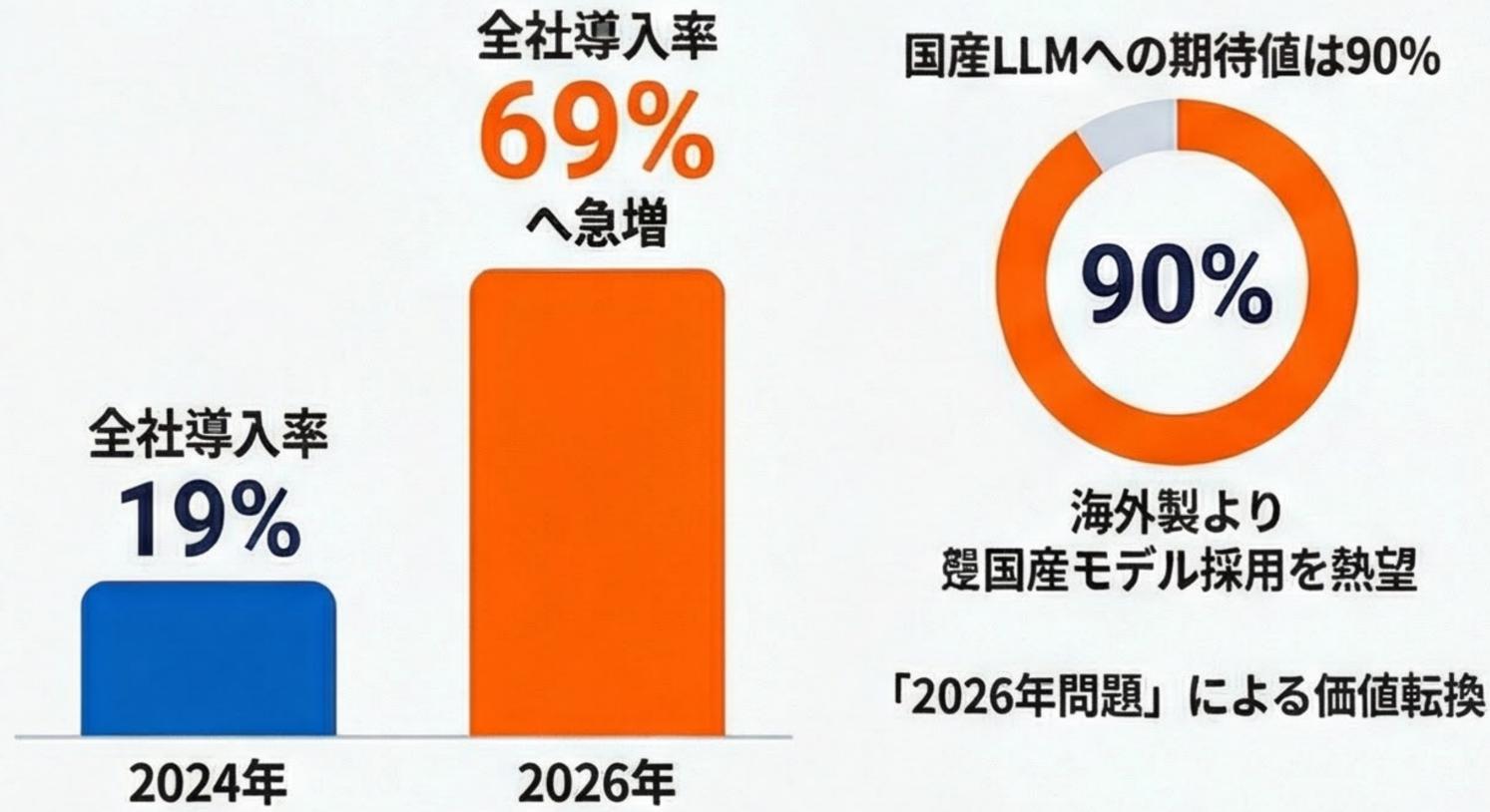


2026年：国産LLMの社会実装と「ソブリンAI」への転換

日本の生成AI市場は全社的な社会実装フェーズへ移行。「2026年問題」とデータ主権意識の高まりが国産LLM需要を牽引。

市場の劇的变化と国産LLMへの期待



価値の源泉 (旧)



ネット上のデータ
公開データ枯渇

価値の源泉 (新)



社内の秘匿データ
高いセキュリティと日本語性能

主要ベンダーの戦略的ポジショニング



フィジカルAIへの移行



PC画面を超え



工場のライン制御



ロボットなど独視世界の
リアルタイム制御へ浸透



データ主権 (ソブリンAI) の確立

機密情報を守るため、海外クラウドを介さない
オンプレミスや閉域網での運用が主に

主要国産LLMベンダーの特徴と採用実績

NTT	NEC	ソフトバンク	富士通
主要モデル: tsuzumi 2 技術的特徴: 超軽量 (1GPU稼働可)、 高セキュリティ 主な採用領域: 金融・医療・自治体 (オンプレミス)	主要モデル: cotomi 技術的特徴: 超高速推論、 自律型AIエージェント化 主な採用領域: 製造業 (リアルタイム制御) 官公庁	主要モデル: Sarashina 技術的特徴: 4,600倍パラメータ、 ソブリンクラウド 主な採用領域: 返信インフラ最強化・ 大規模データ処理	主要モデル: Takane 技術的特徴: 基幹システム連携、 BPR推進に強み 主な採用領域: 地力自治体 (電子視覚・財務連携)